

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 130人

② 算数 130人

③ 理科 130人

5 留意事項

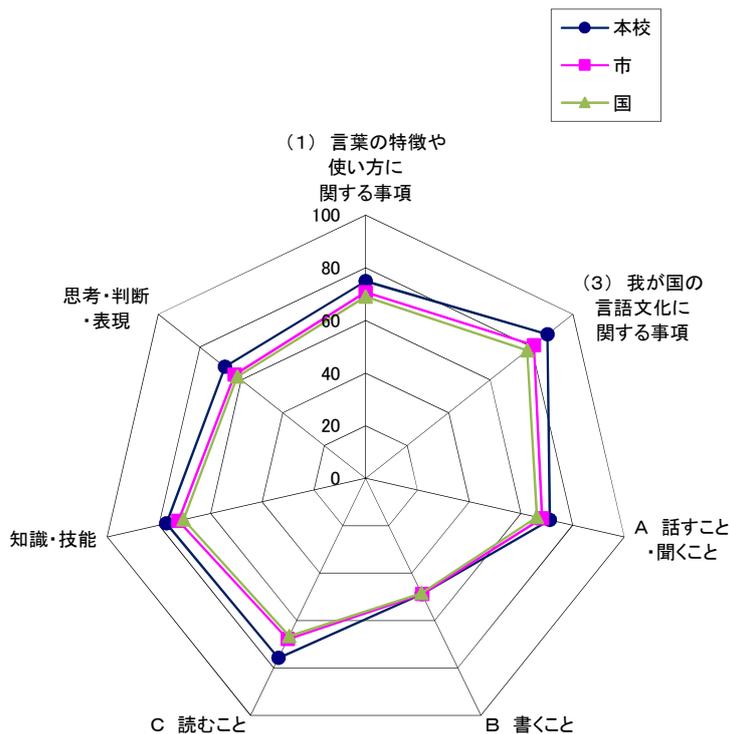
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	71.2	68.2	66.2
	B 書くこと	48.8	48.9	48.5
	C 読むこと	75.8	67.9	66.6
観点	知識・技能	77.1	72.5	70.5
	思考・判断・表現	67.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

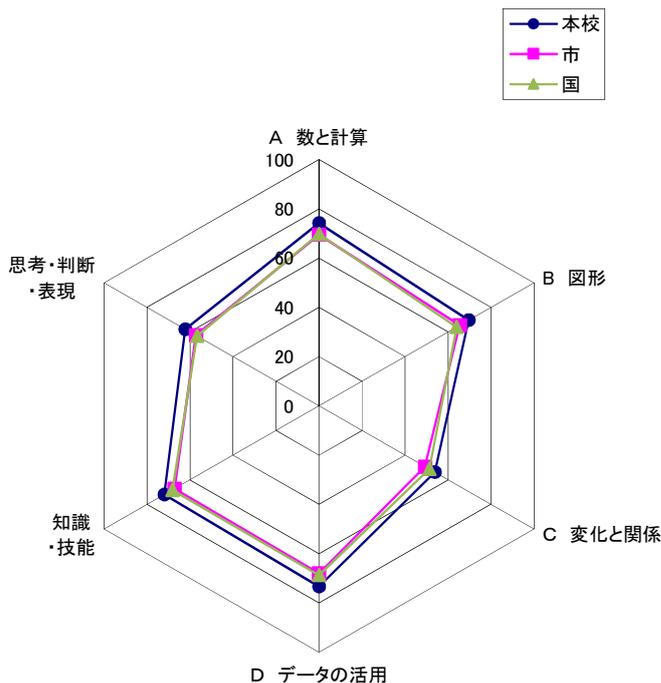
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○文章の中で正しく漢字が使えるかを問う問題では、いずれも7割程度の正答率であった。 ○話し言葉と書き言葉の違いを理解しているかを問う問題の正答率は88.5%と、よく理解している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や言葉については、文章の中で使えるように、練習や家庭学習などを継続し、今後も指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○正答率は87.7%であり、よく理解しているといえる。	・引き続き伝統的な言語文化に関する指導を行っていく。また、言語の特徴やきまりについても、繰り返し指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○話し手が伝えたいことを捉える問題においては、正答率が88.5%とよく身に付いていた。	・国語だけでなく様々な教科において、話し合う機会を設けることで、話すことや聞くことの力を伸ばしていく。
B 書くこと	○この領域の平均正答率は全国と同程度であった。 ●話し合いをもとに文章のよさを見付ける問題の正答率は43.8%であった。全国平均よりは高いものの半数以上ができていないため、さらなる向上を目指す。 ●文章を整える問題では正答率が全国平均よりも5ポイント以上低かった。文章の構成に着目して、文を整えることが課題である。	・自分の考えを書く機会を意図的に増やすことで、書くことになれるようにする。また、書き方の型や手本を見せたり、児童同士で文章を推敲し合ったりすることで、書く力を伸ばしていく。
C 読むこと	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○いずれの問題の正答率も7~8割であった。特に、物語の全体像を捉える問題の正答率は82.3%とよく理解していた。	・読む単元においては、引き続き丁寧な読み取りや中心となる文や語を捉える指導を行う。 ・叙述をもとに心情を読み取る問題の正答率がやや低かったため、人物の気持ちや行動に着目しながら、場面ごとの心情の移り変わりを捉えられるように指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.2	69.5	69.8
	B 図形	69.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	53.8	49.3	51.3
	D データの活用	73.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	62.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

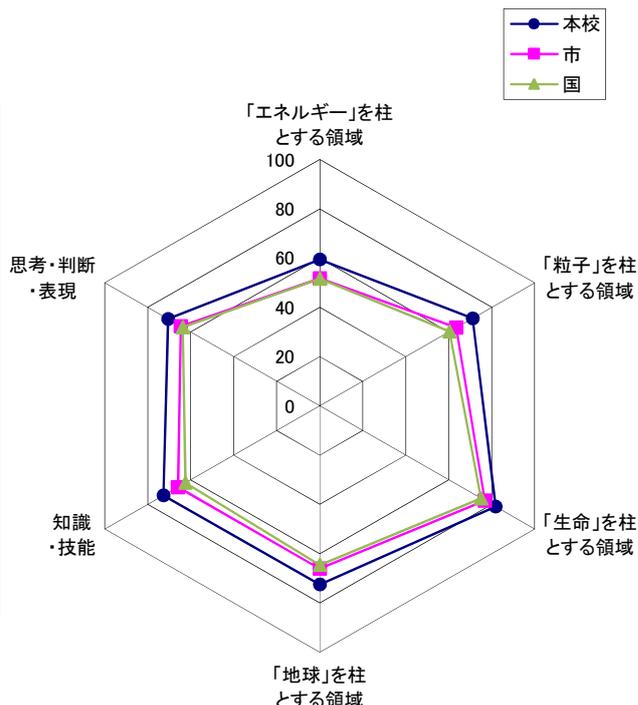
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○カップケーキ7個分の値段を1430÷3で求めることができることに対する説明も正答率80.8%とよく理解ができている。また、85×21の答えが1470よりも必ず大きくなることを説明する問題については、正答率が36.2%と全国や県の平均より多少高い結果となったが、さらなる向上が必要である。	・自分の解き方を説明する学習だけでなく、さまざまな解き方を提示し、どのように考えたのかを他の児童に説明する学習を意図的に設けることで、思考力を高めていく。
B 図形	○この領域の平均正答率は全国より5ポイント以上高い。 ○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では、プログラムを理解し、正しい命令に書き直すことができた児童の割合が63.8%で、全国や県より10ポイント以上高かった。 ○全体的に全国や県の平均を上回る良い結果となったが、さらに向上させたい。	・コンパスや定規を使った作図については普段の授業や宿題で多く実施しているが、プログラミングについてはまだ十分には実施していないため、さらに児童がプログラミングに触れる機会が多くなるよう工夫を行い、力を高めていく。
C 変化と関係	○この領域の平均正答率は全国より高いが他の領域と比べると正答率は低い状況にある。 ○果汁が40%の飲み物1000mLに含まれる実際の果汁の量を求める問題では、割合の関係を理解し、果汁の量を求めることができた児童の割合は全国や県の平均より5ポイント以上高かった。しかし、この飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合を問う問題については、23.8%と低い結果になってしまったので、向上させる必要がある。	・数直線や図があらかじめ記載されている問題については正答率が高く、記載されていない問題については低い傾向が見られたため、自分で数直線や図をかく問題に取り組むという活動を今後より行っていき、能力を向上させる必要がある。
D データの活用	○この領域の平均正答率は全国より5ポイントほど高い。 ○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ問題では、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することができた児童の割合は全国や県より10ポイントほど高く、よく身についていることが分かる。	・与えられた表やグラフからどのようなことが分かるか話し合ったり、必要なデータを読み取ったりする活動を継続し、データを読み取る力や活用する力をさらに向上させていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	59.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	71.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	81.8	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	72.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	72.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	70.5	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○光の性質に関する実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題の正答率は82.3%でよく理解されている。 ●光の性質をもとに、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題の正答率は33.1%であった。全国や県の正答率より高い結果であるが、さらなる向上を目指したい。	・光の性質の学習において、日光は直進することなどの基礎的な内容をしっかりと理解できるように、家庭学習等で復習できる機会を設ける。 ・様々な教育活動の中で、学んだことを生かして応用していく場面を設定し、既習の内容を日常生活に活用していく力を高めていけるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○一定量の液体の体積を適切に測り取る器具がメスシリンダーという名称であることを答える問題の正答率は89.2%でよく理解されている。 ●凍った水溶液について、試してみたいことをもとに、見出された問題を書く問いの正答率は50.8%であった。全国の正答率より高い結果であるが、半数程度の正答率となったため、さらなる向上を目指したい。	・「水のすがた」の学習における基礎的な知識や概念を復習するとともに、水を熱したときや凍らせたときの特性を器具を使って視覚的に捉えやすくしていくような学習活動を展開していく。 ・実験結果から考察する際、論理的な文章で表現できるようにするために、理科の授業だけでなく他教科の学習活動時においても、問いの意図を正確に読み取ったり、順序立てた説明をしたりする学習を積み重ねていく。
「生命」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は全国より高い。 ○昆虫についての疑問を解決するためにはどんな観点をもって観察すればよいかを選ぶ問いの正答率は94.6%でよくできている。 ○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問いの正答率も81.5%と高い結果であった。	・生物の成長の様子について、授業で実際に観察をしていくことで、より実感を伴った知識を獲得できるようにする。
「地球」を柱とする領域	○この領域の平均正答率は全国や県より高い。 ○冬の夜の気温の変化について、太陽が出ていないので気温の変化が少ないという考えが正しいとするとどんなグラフになるかを考え選ぶ問題の正答率は86.9%でよくできている。 ●冬の数日間の天気と気温の変化の観察結果のグラフから分かることを読み取る問題の正答率は43.1%という結果であった。全国や県の正答率より高い結果であるが、さらなる向上を目指したい。	・「天気の変化」の学習における基礎的な知識や概念を復習するとともに、日々の授業において、資料やグラフから実験結果を正確に読み取ったり、その内容について友達と説明し合ったりするなど、分析力や説明する力を育てていけるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習については、「自分で計画を立てて勉強しているか」に肯定的に答えた児童の割合は81.8%で、全国平均を上回っている。今後も自主学習を工夫している取組を紹介するなどし、家庭学習への意欲を更に高めていきたい。

○読書についての質問では、平日の1日あたりの読書の時間が「まったくない」と回答した児童の割合は、全国よりやや低い傾向であったものの21.2%おり、読む児童と読まない児童に差がある。「読書は好きか」という質問への肯定的割合は全国や市より高い。今後は、さらに読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○国語、算数、英語の学習についての質問では、「その教科の学習が好きか」に対して肯定的に回答した児童の割合は全国平均を上回っていた。「国語、算数の授業内容がよく分かるか」についても、国語で93.9%、算数で81.8%の児童が肯定的に回答していた。また、国語・算数が「将来役に立つと思うか」や「算数の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の質問に対しても高い肯定的回答をしている。今後も成長が実感できるような、深い学びのある授業展開を工夫していきたい。

○授業についての質問では、「課題の解決に向けて、自分から考え取り組んでいる」「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう工夫して発表した」「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもと新しいものを作り出した」などの問いに対して肯定的な回答の割合が高い。このことから、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいることが分かる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。

○学校生活についての質問では、「自分には、よいところがあるか」「将来の夢や目標があるか」の質問に対して、肯定的な回答の割合が全国や県を上回り自己肯定感が高い。また、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童も90%以上であった。今後も、児童がお互いの良いところを認め合い、充実した学校生活を送れるようしていきたい。

○ICT機器の活用に関する質問の肯定的割合は、全国平均比べるととも高い傾向にある。今後もさらに、1人1台の端末を授業の中に取り入れ、自ら学ぶためのツールとして活用したりしていきたい。

○家庭生活についての質問では、寝る時刻、起きる時刻、朝食の生活習慣に関する質問の肯定的回答が高い。各家庭での意識の高さが伺える。

●ゲームや動画視聴の時間については、全国や市の平均より短いものの、「携帯電話やスマートフォン等の家の人との約束を守っているか」についての肯定的な回答は、全国や市の平均を下回った。今後も、タブレット等の使用については家庭との連携を図りながら、適切に使えるように指導していきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1 話す・書く力の向上 2 言語事項に関する力の向上 3 数量や図形の基礎的な事項の定着	1 ノート指導と合わせて、根拠をもとに、順序立てて端的に分かりやすく話す・書く指導 2 漢字は文章の中で使えるよう書く指導と合わせて行う。 3 繰り返し学習や家庭学習の工夫を行う。	・漢字学習、数量や図形の基礎的な事項については、ほぼ良好な結果であった。しかし、話す・書くことについては課題がある。特に「書く」については、条件に合った書き方が十分身に付いているとは言えない。また、算数や理科の記述で解答する設問の中にも正答率の低いものがあった。今後は、書くことに重点を置いて指導していく。